

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年

4月3日

第113号



## イスノキ (マンサク科)

園内、温室の裏、山崎川沿いのフェンス脇に、葉に隠れて見にくいのですが、目立つ赤い小さな花がみられます。この花には花弁は無く上部に両性花下部に雄花を付けます。葉が革質で大小の「虫こぶ」が多数出来ることでよく知られていますね！東アジアに広く分布し、日本でも、本州西南部、四国、九州に自生し、緑化樹や生垣に利用されている常緑高木です。イスノキは日本有数の材の重さと硬さがあり、弥生時代には農機具の鋤などに使われ、その後は木刀やそろばん、櫛、盆、三味線等に加工したり、燃やした後の灰を陶磁器の釉薬にします。また、虫こぶにはタンニンを含むことから、布の染料にされます（黒みがかかった薄茶色、亜麻色）。日本では薬用とする歴史は見つけられませんでした。中国では根を蚊母樹根（ブンモジュコン）として、足浮腫、関節痛、打撲痛に使っていたようです。

## モチノキ (モチノキ科)

同じく、イスノキの隣で黄緑色の花を蜜につけているのが見られます。西日本に生える常緑樹で雌雄異株。秋には1cmほどの赤い球形の実を付けます。この木の樹皮を採取し、2~3ヶ月間、水につけて腐らせた後、白で細かく砕いて水で洗うと、粘りけのある灰白色のゴム状の物質が採れます。これを「鳥もち」として、かつては実際に小鳥を捕獲するために使われたり、ハエ取り紙やネズミ捕り、絆創膏の糊として使用していました。植物名もそのような粘着物を含むことに由来します。日本の民間では樹皮を煎じて高血圧の予防に利用していたそうです。

今、園内では花を付けた  
数々の草木が楽しめます！  
ぜひ、ご覧ください！！